母校の思い出

山城18回　堀　場　　厚

山城高校に対する思いを辿りますと、地域に根ざした温かみのある学校だったということが思い出されます。特に多くの友人がそれまでの学芸大付属小中学校のように単なるサラリーマンや教育者の子供ではなく、家で商売をしていたり西陣を中心とする繊維関係で物を創作したりしていて、大変たくましく生活力がある印象を鮮明に受けたことを今でも覚えています。

学校そのものもスポーツが盛んでプールや体育館が当時の他の高校より充実していました。しかし肝心のグラウンドはいつも工事をしていてテニスコートも二面ほどしかなく、どうしてもしたかった硬式テニスの入部をあきらめたこともありました。しかし、あきらめただけでは気が済まず、何かスポーツをしようということで友人たちと青城クラブという社

会人リーグに参加するサッカーチームを作ってプレーを楽しんだことは今となっては本当によい経験でした。今このチームが京都大学の同好会チームとして残っていると聞いて大変嬉しく感慨深いものがあります。いずれにしても山城は文武両道を価値観の一つにしていたと思いますし、今私が京都パープルサンガの後援会長を引き受けているのもその様な体験から来る影響で、またそのお陰で恩師の森貞男先生に再会でき、サンガのゲームを一緒にヤジを飛ばしながら応援できるのも大変幸せなことです。

またクラス編成と講義の編成がことなり、その分他のクラスの多くの人達とも交流できたことは本当にラッキーだったかも知れません。いずれにしても個性あふれる学年のクラスメンバーで授業も、内容の方はともかく、結構たのしかった様な思いがあります。また体育祭のフォークダンスで淡い思いを持っている子の番が何時来るかドキドキし、曲が終わってしまわないか心配しながら踊った思い等が走馬燈のように駆け巡っています。

昔の校舎も運動場もなくなりましたが、今、近くを通るとやはりあの時の気分を思い出し懐かしく思うと共に楽しかった山城での青春時代に感謝しています。多くの素晴らしい後輩が輩出することを願っています。